

(様式1)

## 令和6年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立柳島小学校
校長名	近藤 幸弘

### 1 本校の学力に関する状況

#### (1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"><li>・17教科中10教科で、平均正答率が全国平均を上回った。</li><li>・算数科で、同一学年を経年比較すると第3学年でD・E層割合の減少がみられた。また同一集団を経年比較すると、第5学年でD・E層の割合が減少した。</li><li>・第5・6学年理科で、「思考・判断・表現」の正答率が全国平均を上回った。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・第4学年で同一集団の正答率を経年比較すると、ともに全国平均以下、前学年からの低下がみられた。</li><li>・算数で同一学年を経年比較すると、全学年でA・B層割合の減少がみられた。また、同一集団を経年比較すると、第3・4・6学年でD・E層割合の増加がみられた。</li><li>・理科で、「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」の正答率が、全学年で全国平均を下回った。</li></ul>

#### (2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"><li>・「生活習慣」に関する調査項目について、多くの学年で全国平均以上の割合で肯定的回答が得られた。昨年度の課題であり、取組の成果が現れてきた。継続して学力向上の土台を作る。</li><li>・「学級の規範意識」「先生のささえ」に関する調査項目について、多くの学年で全国平均以上の割合で肯定的回答が得られている。児童が本校教員を信頼していることが表れている。引き続き「信頼される教師」として指導にあたる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・「対人ストレス」に関する調査項目の結果から、友人関係に悩みをもつ児童の不安を軽減していく取組が必要であることがわかった。対話的活動を意図的・計画的に取り入れ、分け隔てなく接する心情を育てることを通して、友人関係の不安なく安心して生活できるようにする。</li><li>・「成功体験」「充実感」に関する調査項目の結果から、それらが本校児童に対する指導上の課題となっていることが読み取れた。「努力」「継続」の大切さを指導し、真の充実感を得られるようにしていく。</li></ul>

#### (3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"><li>・ベーシックドリルでは同一集団経年比較で正答率が上回った。朝などの補完的学習により、基礎的・基本的な知識・技能の定着が図られている。</li><li>・知識・技能の定着の他、思考力の育成をねらい、思考ツール等の活用が進んでいる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・校内研究を一般化し、算数を中心に、個別最適な学びと協働的な学びのある授業づくりを行っていく。</li><li>・児童の実態を詳しく分析し、実効性のある学力向上プランを作成し実践していく。</li></ul>

## 2 本年度の学力向上に関する主な取組

### (1) 校内研究（本校では算数）を他教科に適用した、日常の授業の充実

①「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実をめざす授業づくり（本校研究主題）  
「個別最適な学び」「協働的な学び」を充実させるための手だてを検討する。これは、新たな手だてを考えるというのではなく、今まで実践してきた数多くの指導技術の中にある「個別最適な学び」「協働的な学び」を充実させる手だてを見直し、価値付け、共有するということである。今まで当たり前のように行ってきた「めあて設定・把握」「自力解決」「学び合い・話し合い」「まとめ」「適用問題」や、それらを促す発問・指示が、「個別最適な学び」「協働的な学び」においてどれだけ価値があるのかを全員で確認・共有し、教師の学びとしていく。

②校内研究で教師が学んだ「手だて」の、他教科の授業への適用

本校の校内研究は、他教科でも適用できる「授業づくり」である。単元構成や適用問題の有無の違いはあるものの、めあて把握から始まる授業の流れ、「個別最適な学び」「協働的な学び」における発問・指示は、日常的に他教科でも実践されている。校内研究と同様、他教科でも価値付けていくことで、授業の充実が図られるものと考えている。

### (2) 組織的な授業力・指導力の向上

①校内研修の充実

本校では、昨年度に引き続き、主幹・主任教諭による校内研修を実施している。3年目までの若手教員を対象としているが、全ての教員が参加し研鑽に励んでいる。内容も、生活指導・学級経営・授業づくり…と幅広く充実している。講義形式だけでなく、参加教員の意見・考えを発表したりグループで話し合ったりして、「自分事」として学ぶよう工夫している。

②授業を見合う

校内研究や研修で学んだことをどのように実践しているか、またそれ以外にもどのような指導技術を用いて児童の学力向上を図っているか、日頃の授業を見て学ぶ。学ぶだけでなく、放課後等を利用して授業について話し合いも行う。常に見られるわけではないが、見た際には積極的に意見交換をしている。

### (3) 学校全体での組織的取り組み

①補完的学習の充実

朝学習の時間を活用した取組はこれまでも実施してきた。学習内容が定着していない児童に対して放課後10分でも指導の時間を確保できるように、今後教務と連携して会議の精選・生活時程の見直しを図っていく。

②家庭との連携

児童によっては、家庭学習の環境が整っていないことがある。個人面談等で保護者に繰り返し説明し、定着していない学習に少しでも取り組むようお願いをしていく。

③年2回の柳島学力テスト

本校では、知識・技能の定着のため、国語（漢字）算数（主として計算）の確認テストを行っている。85点を合格とし、合格点に達しない場合は補習を行っている。設問を検討・改善しつつ、引き続き本校独自の学力テストに取り組んでいく。

## 3 「令和7年度 墨田区学習状況調査」における目標

### (1) 目標

- ・全ての学年・全教科の同一集団経年比較で、正答率が昨年度を上回るようにする。
- ・全ての学年・全教科の同一集団経年比較で、D・E層を7%以上減少させる。
- ・全ての学年で、算数の正答率を全国平均以上にする。